



# 向陵だより

## 今年度の重点目標

『向陵っ子全員が よろこんで  
登校できる 学校づくり』  
令和元年10月31日(木)発行 第6号



## 『伝え方のレシピ』

校長 石前 聖香

校長として子どもたちに伝えたいことはたくさんあるのですが、集会等での講話が近づくと、その伝え方に思い悩むことが多々あります。

『伝え方が9割』という本の著者、コピーライターでもある佐々木圭一氏は「コミュニケーションの基本は、自分が思っているそのままを口に出すのではなく、いかに相手のことを想像して伝えるかにかかっている」と述べています。

例えば、掃除をしようとしないうちにも「掃除をしなさい」と言っても、なかなか素直に「掃除をしよう」とは思いません。では、「〇〇さんが黒板を担当すると、すごくきれいになりますね。ありがとうございます！」はいかがでしょう。自分から黒板をきれいにしようという気持ちが高まります。相手が何を求めているかを考え伝えると、受け手は動きたくなくなり、動きやすくなるものです。著者は、こうしたコミュニケーションの技術を「伝え方のレシピ」と呼んでいます。

その一つが「クライマックス法」。「今から大切な話をします」と言うだけで聞き手は頭を上げるようになります。伝えたいことの前に「今から重要な話があるよ」と発信することで関心はぐんと高まります。「ポイントは2つです」「一度しか言いません」「君たちだけに話します」などのワードも効果は抜群です。

もう一つは「ギャップ法」。福沢諭吉の「天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらず」、柔道家谷亮子の「最高で金、最低でも金」。正反対の言葉を組み合わせ、印象的なフレーズを創ることでメッセージ性がより強調されます。「もっと勉強しなさい」より「よく遊び、よく学べ」です。

もちろん、話す速さや抑揚、間のとり方、表情などに加え、「つかみ」の工夫や視覚化することも、伝え方には欠かせないスパイス、隠し味です。

教師として親として、子どもに関わる大人として、子どもの「認められたい」という気持ちに働きかけ、子どもが自ら一歩踏み出すことができるよう、魔法のレシピを効果的に活用し、子どもの心を動かす「伝え方」に磨きをかけたいものです。



「折々の 遊ぶいとまは ある人の いとまなしとて 書(ふみ)よまぬかな」

本居 宣長 (江戸時代の国学者)

余裕のある人も、時間がないとって、なかなか本を読まないものだ、という意味だそうですが、今も昔も、読書習慣を身に付けるのは簡単ではないということでしょうか。

読書の秋。学校では、11月を読書月間に設定し、朝読書や読み聞かせの取組を進めます。自分と違う世界、体験できない世界、自分と異なる考え方や生き方、思いもよらない素晴らしい出会いと感動があります。

大人が読書をしてモデルを示す、ノーマディアデーで「家読」に親しむ等、本との出会いを演出し、読書の秋を過ごしてほしいと願います。



11月  
第3日曜日は  
旭川教育の日



## 本気度MAX! 学習発表会大成功

10月6日(日)気持ちの良い秋晴れの中、学習発表会を開催いたしました。

「本気度MAX! ~一人一人の力を合わせて~」のテーマのもと全校児童が心を一つにして学年としての発表に取り組みました。

1年生から6年生まで一人一人が自分にできる精一杯の演技と演奏で素晴らしい発表を作りあげました。多くの保護者や地域の皆様に見守られる中で存分に力を発揮した向陵っ子の姿にこの半年間の成長を感じることができました。

ご観覧いただいた皆様、子供たちへの大きな拍手とご声援をありがとうございました。



## ~第29回北海道生活科・総合的な学習教育研究大会 旭川大会~

10月18日(金)本校を会場に約260名の参加者を迎え「第29回北海道生活科・総合的な学習教育研究大会旭川大会」を開催しました。

本校からは、1年生、3年2組、6年1組が授業を公開し、多くの参会者から意欲的に学ぶ子供たちの姿に称賛の声をいただきました。

1年生は近隣の「大町のぞみこども園」「天使幼稚園」から年長児を招き、一緒に学習を行う保幼小連携の授業を公開しました。

3年生は「食育」をテーマに、給食に関わる多くの人々から得た情報を基に「食事と健康」について自分の考えを作り出しました。

6年生は「キャリア教育」をテーマに、旭川市で働く「素敵な大人」と出会い、身近な大人が考えていることや仕事への思いにふれ、自分の将来を考える素地をつくる学習を行いました。

